

青年海外協力隊

加藤さんケニアへ

関と美濃加茂で出発報告

看護師の経験生かす

青年海外協力隊として、二十一日から二年間、アフリカ・ケニアに赴任する加藤由美さん(ニセ)＝関市小屋名＝が十七日、関市役所を訪問。十八日には以前看護師として働いていた美濃加茂市の木沢記念病院も訪れ、出発のあいさつをした。

(安藤恭子、中尾吟)

加藤さんは美濃加茂市のあじさい看護福祉専門学校を卒業後、オーストラリアの看護大学へ一年間留学。学んだ医療の知識と語学を海外で生かしたいと協力隊に参加した。

関市の中濃厚生病院でも看護師として働いたほか、ケニアで七カ月間の非政府組織(NGO)活動に参加した経験もある。現地ではエイズウイルス(HIV)感染者のケアや治療サポートに携わる。

関市役所では尾藤義昭市長の激励を受け「来てくれてよかった」と、現地の人に思ってもらえるように頑張りたい」と話した。

木沢記念病院では山

田實紘院長から激励を受けた。山田院長から「日の丸を背負う気持ちで気を付けて頑張ってきて」と励まされた加藤さんは、HIVのカウンセリング資格をケニアで取得したことを明かし「心のケアやマラリア対策にも努めたい」と話していた。

山田院長にケニア行きを報告する加藤由美さん(左)＝美濃加茂市古井町の木沢記念病院で

